

# うつしや の静寂に



うつし世は「現世」、

常世は「来世」。

ふたつの世を「素朴な祈り」で

つないできた暮らしが

今、静かに語りかける。

由井英監督作品

人が一生に出会う人は多くはありません。  
でも、出会うべき人には不思議と出会います。

もしあなたが偶然この映画に出会ったとしたら、それはきっと出会う理由があるのだと思います。  
そして後にも先にもなく、いま出会うべくして出会った映画だと思ってもらえば嬉しいです。

文化庁映画賞に輝いた  
『オオカミの護符』から2年。

映画監督 由井 英

人の絆が薄れ、  
環境問題を抱えた現代人に、  
ふたたび川崎の地から  
「人と風土の関係」を問う。

舞台は、都心から多摩川を渡った川崎市北部。  
多摩丘陵の一角をなすこの土地には京王線、小田急線、  
東急田園都市線、東急東横線が並行して走り抜け、  
広大な住宅街に暮らす人々を日々都心へと送り出す。  
彼らは「川崎都民」あるいは「新住民」と呼ばれている。  
一方、この鉄道の狭間には、土地の神々や祖先に  
素朴な祈りを奉げ続けてきた。

「旧住民」のお百姓の暮らしはある。  
様変わりする暮らしの中にはあっても、  
代々受け継がれてきた伝承を守り続ける人々がいる。

「講」は、今に生きる者だけが集うものではない」と、古老は言った。

古来、日本列島に暮らす庶民は現世に生きる人間の意志だけで

ものごとを決めるのを慎しんできた。

神や仏が同座する場に人々は集い、  
風土や先祖とつながりあつてきた。

こうして土地に根ざしてきた人々は、

「環境問題」や「自然保護」を口にする事はない。

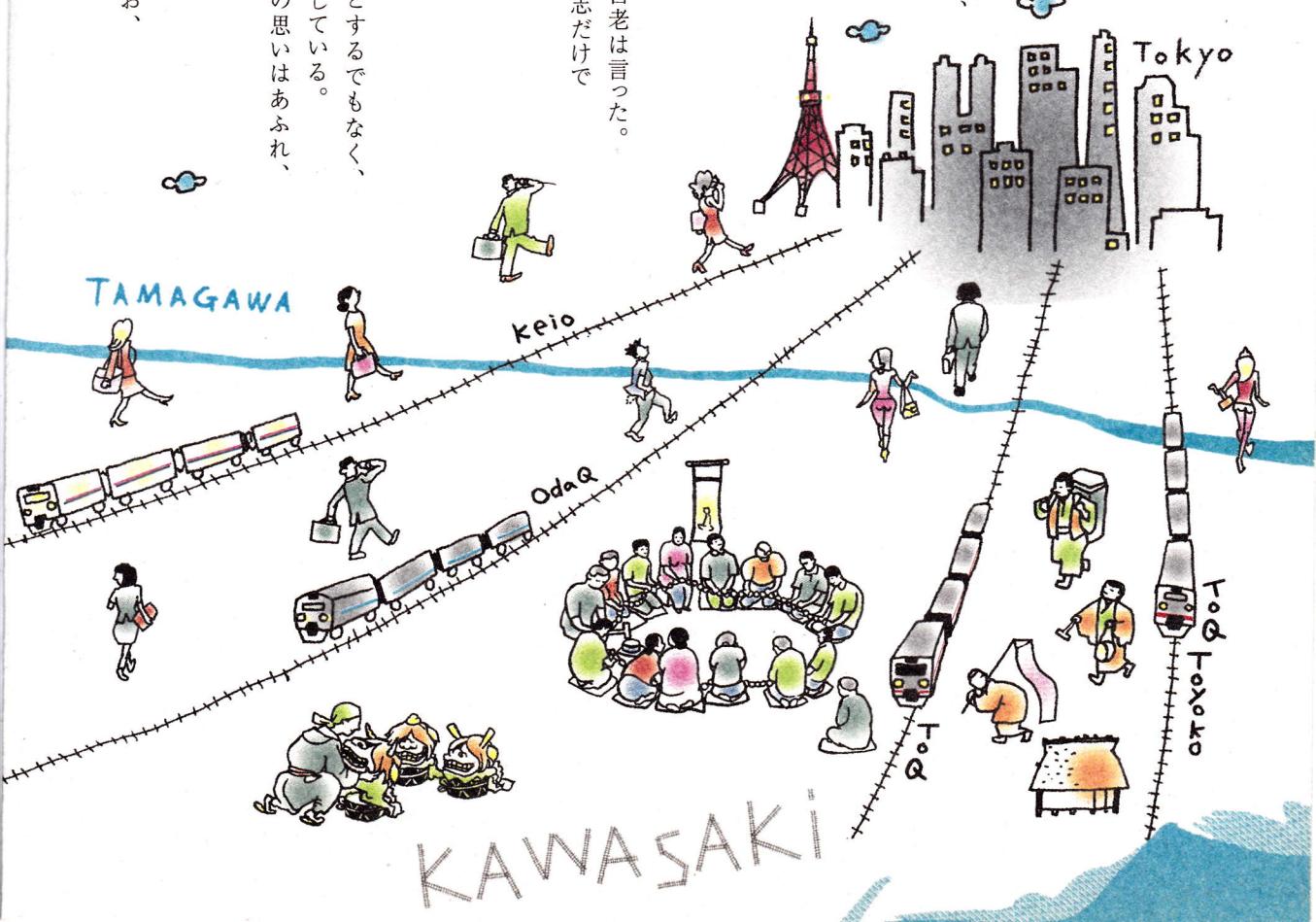
自らの行いを主張するでもなく、誰にほめられようとするでもなく、  
ひたむきに祈りをもつて風土と共にあり続けようとしている。

失われゆく風土になおも寄り添うように、土地の人々の思いはあふれ、

明治政府の命じた「神社合祀」によつて社が失われ、  
森だけが残された鎮守の社でおよそ百年ぶりに、

「獅子舞」の奉納が実現されていく。

明治以降、近代化への舵が大きく切られて久しい今なお、  
庶民の祈る姿は私たちの心を捉えて離さない。



## くらしといのちの 豊かさを求めて

この映画はトヨタ財団の2007年度研究助成支援を受けて製作されました。トヨタ財団は「くらしといのちの豊かさを求めて」というテーマを掲げ、「未来のために昔や今を犠牲にするのではなく、過去とのつながりのなかで今を生きることに私達の幸せがあり、いのちが輝くのではないか」と問いかけています。

私達はこの趣旨に賛同し、現代の暮らしの中で失われつつある「人の祈る姿」に焦点を当て、映画製作を行って参りました。

今、「素朴な祈り」が消えゆくことと、深刻な環境問題をはじめ、急速な近代化の歪みが現代社会に表れてくることには深い関係性があると考えています。そして「私達の祖先は、なぜ祈りを奉げ続けてきたのか」を考えることの中に、現代社会の歪みを乗り越えていく手がかりがあると信じ、その思いに深く共鳴する仲間たちがスタッフとして集い、撮影に、音楽に、そして語りにと、思いを作品に込めて表現しました。

この映画の上映がひとつのかかけとなり、「くらしといのちの豊かさ」を求める人々の出会いがさらに促され、広がっていくことを望んでいます。

人々が円座して  
数珠を練りまわす

### 「念佛講」

月に一度、集落の人々が一軒の家に集まり、「講」は行われる。

「無尽講」は、お金の貸し借りを通じて互いに融通しあう仕組みであり、「念佛講」は先祖供養のための集いである。

「講」には神仏が描かれた掛け軸が掲げられ、祈りが奉げられる。映画ではその掛け軸が果たす役割に注目している。

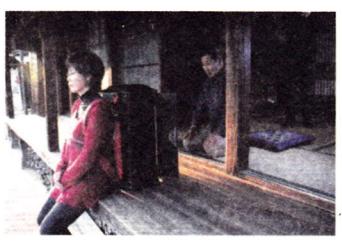


お地蔵さんを人が背負い  
家々をめぐり歩く

### 「巡り地蔵」

「巡り地蔵」はお寺からお地蔵さんを借り受け、家から家へと送り渡す行事である。かつてはお地蔵さんを収めた厨子を人が背負い、家々を巡つていった。家に着くとお地蔵さんは縁側から迎え入れられ、座敷の決まった場所に安置される。

お地蔵さんに手を合わせる子供の姿は、見る人の心に懐かしい温もりを伝えてくれる。



すべてを包み込む  
風土に還る

### 「谷戸」の風土

多摩丘陵の「谷戸」は、なぜ人の目に優しく映るのだろう。

川崎の一角に残された谷合いの「谷戸」で田しごとをしているお百姓の姿が伝えてくれるのは、日々の仕事を通じ自然と関わることから「祈り」が生まれることである。映し出された映像から



風土に還る  
明治政府が発した「神社合祀令」は、各地で素朴な祈りが奉げられてきた社を廃しただけでなく、人と風土（自然）とのつながりを奪い去った。

同じく合祀によって社を失った初山では、2009年10月、実におよそ百年ぶりにかつての鎮守・正八幡神社跡で獅子舞を奉納した。獅子舞を終え、森を後にする人々の表情にはこの映画のテーマが凝縮されている。

### 「初山獅子舞」

明治政府が発した「神社合祀令」は、各地で素朴な祈りが奉げられてきた社を廃しただけでなく、人と風土（自然）とのつながりを奪い去った。同じく合祀によって社を失った初山では、2009年10月、実におよそ百年ぶりにかつての鎮守・正八幡神社跡で獅子舞を奉納した。獅子舞を終え、森を後にする人々の表情にはこの映画のテーマが凝縮されている。



# 特別対談短編映像

しじま

## 『静寂のむこう側』

江戸学者、法政大学教授

**田中優子さん**

何度も涙がこみ上げてきそうになりましたね…。この映画のテーマは「祈り」だと思います。講や祭りの「むこう側」にある「祈り」も含めて、時間軸と空間と歴史の全体像が見えたような気がしました。



「ミナペルホネン」デザイナー

**皆川明さん**

この映画は、むしろ若い人に見てほしいと思います。もしかしたら理解しづらいところ、気持ちが咀嚼できないところがあるかもしれません。でも、この映画を観たという記憶は、今後人生でさまざまな体験した時によみがえり、その本当の意味を知るきっかけとなると思います。



国立歴史民俗博物館館長、  
山梨県立博物館館長

**平川南さん**

講を通じての地域の結びつきが戦争に利用される。それが戦後、地域そのものを解体してしまったのではないか。それが過ちであることに再び気がついて、いま日本各地でもう一度地域の結びつきが見直されているという、そういうメッセージがあるような気がしました。

詩人

**覚和歌子さん**

様々な行事に一緒に参加させてもらっているなど位置にカメラがポジションをとっている。外側から見ているのではなくて、まるで「こちらから入って撮って良いよ」という位置から撮影している。この映画は人とのつながりをきちんと築いてから作られていると感じますね。



哲学者

**内山節さん**

「わからない世界」と付き合いながら生きてきた人々が「わかる」という錯覚を抱いた世界に移行したのが近代、現代という歴史。だけど今、科学的な分析をいくらやっても「人間とは何か」はわからないということに人々が気づき始めた時代もあるわけです。



ノンフィクションライター、  
元土喰集落小組合長(鹿児島県川辺町)

**ジェフリー・アイリッシュさん**



日本ではよく伝統的な文化は無くなったりと言いますが、コップに半分入っている水を「半分しかない」と見るのは、「半分もある」と見るのは、まだ日本には昔からの文化が伝えられていると私は信じているので、この映画を見るとそういう姿を身の回りで探したくなるのです。

▼スタッフ

監督・由井英

プロデューサー・小倉美恵子、小泉修吉

共同研究者・田中優子

撮影・伊藤碩男、澤幡正範、

小原信之、由井英

音声・河合樹香

語り・小倉美恵子

音楽監督・清塚信也

作曲・中野哲郎(昭和音楽大学)

音楽演奏・清塚信也(ピアノ)

吉田翔平(バイオリン)

高木慶太(チエロ)

レコードエンジニア・湊雅行

イラスト・みつはしあやこ

編集・録音スタジオ・株東京テレビセンター

デザイン・熊澤正人・内村佳奈

助成支援・(財)トヨタ財團

後援・川崎市川崎市教育委員会、

宮前区観光協会、長野県佐久市、

(財)八十二文化財団

上映支援・川崎市アートセンター、

(財)川崎市文化財団

協賛団体・セレサ川崎農業協同組合、

宮前区商店街連合会、伊佐ホームズ(株)

(有)有介設計・幸信商事(株)、(有)大倉商事、

(株)サメジマコーポレーション、

(株)エスアンドエフ

製作協力

(株)グループ現代、昭和音楽大学、専修大学、

民族文化映像研究所、岩井友子、小泉郎

▼協力団体

初山念仏講中、初山獅子舞保存会、  
とんもり谷戸の自然を守る会、

茂岳山増福寺「巡り地蔵」伝承者の皆さま、

黒川町内会、土橋日影念仏講中、

初山自治会、初山子供会、

神奈川県教育委員会、

神奈川県伝統芸能保存協会、

国立歴史民俗博物館、山梨県立博物館

資料提供

川崎市民ミュージアム、  
多摩市教育委員会、けやき出版

## 劇場公開日程

